

令和 2 年度

学校自己評価報告書

令和 3 年 2 月

一般社団法人 山形県歯科医師会立

山形歯科専門学校

I 学校運営基本方針

山形県歯科医師会立歯科衛生士養成校として、「歯科衛生士養成所指定規則」並びに本校「学則」に則り、地域歯科医療を担う、心豊かな人間性と知識とに裏付けられた専門職の育成に努めます。また、長期的視野から、歯科衛生士の社会的認知度の向上を図りつつ、教育活動のさらなる充実をめざして、適切に学校評価を実施することで学校運営の改善を図ってまいります。

II 重点目標

- (1) 充実した学習活動の展開
- (2) 学校の将来構想に係る検討の推進
- (3) 就職・国家試験対策等進路指導の充実
- (4) 学校生活の充実と心身の健康管理
- (5) 学校環境の整備と安全教育の推進
- (6) 関係諸団体・地域社会との連携の推進
- (7) 健全な財務会計の処理
- (8) 学校情報の適切な提供と学校運営の公開

III 令和2年度 学校自己評価について

1 基本的な考え方

本校では、平成28年度から学校評価事業を開始いたしました。初年度は自己評価の基本姿勢として、本校の学校運営全般にわたり。学生・保護者・講師・臨床実習施設長・山形県歯科医師会理事等の関係する当事者がとらえる本校の状況について、意識調査を実施し分析することを基礎におきました。意識調査は、上記II重点目標を評価項目としてとらえ、それぞれに関連する質問を作成して実施しました。そして、これらの結果を総合的に分析し、各目標の達成度を学校自己評価の指標といたしました。

一昨年度からは、第二段階として、よりよい自己評価をめざして、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考として評価項目の改良、拡充を行いました。また、初年度から継続的に意識調査を実施し、過年度比較等を含めて当該年度の状況分析をするなど、可能な限り精度の向上に努めております。

今後ともこの学校自己評価の結果を基礎におき、さらなる教育の質向上を図ってまいります。

2 対象期間

平成2年4月1日～令和3年3月31日

3 実施方法

(1) 学校内に設置している「校内評価委員会」の構成員と、同会事務局であるすべての教職員、計12名により評価を行います。

なお、「校内評価委員会」の構成は以下の通りです。

◎ 委員長 校長、 ○ 副委員長 副校長
委 員 歯科衛生士科長、同副科長(2名)、事務長、教務主任 (計7名)

(2) 評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に行っています。

(3) 評価は、年度一回2月に実施します。

(4) 評価結果の公開は、本報告書、必要に応じてアンケート調査結果等諸資料を学校HPに掲載することにより行います。

4 自己評価の項目

自己評価は、以下の10項目について実施します。

- 1) 教育理念・目標
- 2) 学校運営
- 3) 教育活動
- 4) 学修成果
- 5) 学生支援
- 6) 教育環境
- 7) 学生の受け入れ募集
- 8) 財務
- 9) 法令等の遵守
- 10) 社会貢献・地域貢献

5 評価項目に対する評価

評価は4～1の得点制とし、基準は以下の通りです。

<適切－4点、ほぼ適切－3点、やや不適切－2点、不適切－1点>

次頁以降に、各小項目毎の12名の評価平均値を記載し、総合得点とします。

なお、点数の文字色は、
青 (3.8～4.0)・・・「良い」
黒 (3.5～3.7)・・・「まあまあ良い」
ピンク (3.0～3.4)・・・「要注意」
赤 (2.9以下)・・・「改善必要」を示します。

Ⅳ 自己評価に向けた調査

〔評価項目 1〕 教育理念・目標

(1) 評価得点

評 価 項 目	昨年度	今年度
A 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。	3. 9	3. 9
B 学校における職業教育の特色は何か。	3. 9	3. 9
C 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	3. 8	3. 8
D 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。	3. 0	3. 1
E 学科の教育目標、育成人材像は、学科に対応する業界にニーズに向けて方向づけられているか。	3. 4	3. 5

(2) 今年度の主な取組並びに成果等

- ① 「職業実践専門課程」（文部科学大臣認定）2年目であったが、コロナ禍における厳しい制約の中、当初予定していた学校間連携交流や臨地・臨床実習等の校外における教育活動が十分に実施することができなかった。（A・B・C・E）
- ② 教育課程編成委員会を年2回開催し、本校教育の理念や目標、具体的方策等をより明確にするとともに、コロナ禍における学習活動の継続や実施方法等について検討・協議した。また、それらを本校教育運営委員会等に報告しさらに検討を加えることができた。（A・B・C・E）
- ③ ここ数年は年度が進むに従い学生の在籍数が増加する傾向にあったが、次年度入学予定者は定員を充足し、全体的に安定した学生数確保に繋がってきており、少しずつ学校の特色等の浸透が図られているように思われる。（A・B・C・E）
- ④ 学校の理念や特色、将来構想については、学生・保護者ともに理解度を示す調査ポイントが毎年僅かずつ上がっており良い傾向を示しているが、今後さらに改善の余地があると思われる。（D）

- ⑤ 昨年度、学校HPをスマートフォン（以下、「スマホ」という。）対応にし、各種学校情報をHP上に随時公開することで、広報の実が確実に上がってきている。(D)
- ⑥ 今年度も本県歯科医師会会員に学校要覧を配付し、学校への理解を高めた。(D)

(3) 次年度への課題

- ① 保護者への理解を深めるために、学校要覧を各家庭に配付し、学校の理念や特色、運営体制や修学支援等について理解の深化を図り、さらに協力体制を強固なものにしていく。(D)
- ② 学校と家庭の連携強化を図るために、保護者との意思疎通にかかる手段（ツール）を検討する。(D)
- ③ コロナ禍における校外実習や学校間交流教育の在り方を改めて検討し、実施可能な活動を精選することで連携継続を図る。(A・B・C・E)
- ④ 今年度は新教育課程完成年度として様々な視点から検証を行ったが、今後に向けて科目内容の整理や精選等必要に応じて改善していく必要がある。(E)

〔評価項目2〕学校運営

(1) 評価得点

評 価 項 目	昨年度	今年度
A 目標等に沿った運営方針が策定されているか。	3. 8	3. 9
B 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	3. 8	3. 9
C 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	3. 8	3. 8
D 人事、給与に関する規程等は整備されているか。	3. 2	3. 2
E 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	3. 1	3. 3

F 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	3. 5	3. 5
G 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	3. 8	3. 9
H 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	3. 0	3. 1

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 教育運営委員会は学校運営の統括会議としての機能を果たした。特に今年度は感染症対策の一環として、W e b 会議を多用することで、時機を逸することなく学校運営の協議を進めることができた。また、山形県歯科医師会理事会（以下、「形歯理事会」という。）への報告や提案、理事会からの指導助言等も適切に行われた。
(A・B・C)
- ② コロナ禍における臨時休業措置、臨床実習実施の可否等の対応については、山形県内各地域の状況を踏まえながら、県歯科医師会との連携のもとで時宜に応じて進めることができた。また、その基として本校 B C P を作成した。(C・F)
- ③ 学校評価事業は5年目を迎えたが、今年度は感染症対策として紙上会議1回（6月）と対面会議1回（2月）という変則的な運営となった。また、それを補うものとして、10月には「新型コロナウイルス感染症対策の中間総括（令和2年3月～9月）」という資料を送付し報告を行った。(A・B・C)
- ④ 教育課程編成委員会で検討したことが学校運営改善に反映され、実質の伴った会議運営ができています。(A・B・C)
- ⑤ 今年度は、コロナ禍の中で、学校図書室運営検討委員会は年1回の開催となったが、学習環境改善や図書の整理・整備、P C 環境の整備、図書室の利用促進等について次年度に向けて協議した。近年、学習センターとして機能が充実し、「テーマ研究」や国家試験対策の学習に利用する学生が増加している。また、蔵書数増大に向けて寄贈図書の公募（関係者）を開始している。(A・B・C)
- ⑥ 学校H P を全面改良・スマホ対応としたことにより広報の実効が上がっている。また専用ブログやインスタグラムの更新が頻繁に行われ、各種学校情報や特色等の広報を様々な形で行うことができた。(G)
- ⑦ コロナ禍における教育活動の継続をめざす中で、オンライン授業やW e b 会議、W e b による講義や講演会等の実施、さらには統計処理の効率化等、学校運営の様々な側面で I T 化が大きく前進した。(H)

(3) 次年度への課題

- ① データ集計などはITを活用することで、できる限り教務職員の業務軽減を図ったが、さらに効率化を図り、業務軽減の実をあげていく必要がある。(H)
- ② 就業規則の勤務時間の割り振りが学校の教育活動等と不整合の部分があり、調整が必要である。特に今年度は感染症対策に係る負担が大変大きく、その改善策が今後の大きな課題である。(C・D)
- ③ 運営組織の意志決定機能は充分備えられているが、今年度は感染症対策の危機管理が大変大きな比重を占め、状況に応じた対策を模索しながら試行するという形となった。今後については、各会議の外部委員の意見や他の有識者の知見を活用し、精度を上げていく必要がある。(A・B・C・E)

[評価項目3] 教育活動

(1) 評価得点

評 価 項 目	昨年度	今年度
A 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	3. 8	3. 9
B 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	3. 7	3. 7
C カリキュラムは体系的に編成されているか。	3. 8	3. 7
D キャリア教育や実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫や開発などが実施されているか。	3. 8	3. 8
E 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携によりカリキュラムの作成や見直し等が行われているか。	3. 5	3. 5
F 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか。	3. 7	3. 6

G 授業評価の実施・評価体制はあるか。	3. 8	4. 0
H 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	3. 8	3. 9
I 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	3. 8	3. 9
J 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	3. 7	3. 8
K 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	3. 2	3. 1
L 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか。	3. 3	3. 2
M 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	3. 5	3. 3
N 職員の能力開発のための研修等が行われているか。	3. 7	3. 3

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① コロナ禍において臨床実習の実施が予定通り進まず、実習協力施設（歯科医師・歯科衛生士）指導者に多大な迷惑と負担をかけることとなった。実習内容の精選や感染防御策の徹底など、必要に応じて密接に連携を取りながら実施した。
(D・E・F・H)
- ② 臨地実習については、例年数多くの協力校・協力施設と密接に連携して実施しているが、今年度は感染防御のため限られた学校・施設での実施となった。そのような中、実施した実習全てにおいて大変内容の充実したものとなり、達成感に繋がったことは感謝したい。(B・D・E・F)
- ③ 第3学年「テーマ研究」発表会について、今年度は、感染症対策としてハイブリッド方式（現地開催とWeb開催）での実施となった。文献検索を基盤とした研究

となったが、発表内容は意義あるものとなり、例年通りしっかりした発表となった。コロナ禍において、限られた期間における活動となったが、大変充実した学習となったと思われる。(D・H)

- ④ 「テーマ研究」担当講師のWeb打合会を4回実施し、講師間の連携強化を図ることができた。(K)
- ⑤ 学校間教育連携については、感染防御のため、残念ながら東北文教大学短期大学部・山形美容専門学校とともに実施を見送ることとなった。(G・E・F)
- ⑥ 「テーマ研究」等の取り組みを報道機関の取材を通して、広く広報することができた。(D・E)
- ⑦ 授業評価について、学生の「授業アンケート」と指導者の「授業状況総括表」という総括的な実施に加えて、今年度は中間期にアンケート調査を実施し、より実効が上がるよう努めた。また、その集約結果については関係諸会議に数値データの報告を行った。(G・L)
- ⑧ GPAを用いた学習達成度評価により、正確な学力把握や意欲向上に向けた指導を行っている。(I)
- ⑨ 特別な配慮が必要な学生に対し、学則等に則り迅速に対応することができた。(I)
- ⑩ 教職員研修は、「教務研修規定」に則り行っているが、今年度は感染防御対策のため中止となった講座があった。(M・N)

(3) 次年度への課題

- ① 感染防御に係り、長期間臨床実習が停止となった2学年について、修得すべき知識や技術が不足しており、それをどのように補完していくか、年度を跨いで指導計画を立案していく必要がある。(B・D・J)
- ② 次年度もコロナ禍の環境は続くと考えられるが、歯科衛生の専門性向上とともに、多職種連携に対応できる知識や技術を修得し、姿勢や意欲を培うため、大学や専門学校の学生等との連携交流を改めて推進して行かなければならない。(D・E・F)
- ③ 授業評価の精度と効果向上を図るため、今年度は各科目の中間期総括という区切りを設けたが、その効果的な活用を図り、当該授業の改善に資することとともに学生の意欲向上をめざす工夫をしていく。(G・L)
- ④ 学習成績の状況について、学生への指導や支援を強化するとともに、保護者にその状況について早期に、かつ適切に伝達するしくみを作り、協力体制を確かなものとする。(I)

- ⑤ 次年度に向けて教務職員 2 名の採用を実現する。中長期的な見通しを立てながら職員構成を考え、人材確保を行う必要がある。(K・L)
- ⑥ 教員の能力や指導力向上に向け、校内相互研修を含めて、各種研修をさらに充実させる。特に、I C T の知識・技術、歯科衛生士教育の在り方や保護者対応等に係る理解を深めることが重要である。(M・N)

〔評価項目 4〕学修成果

(1) 評価得点

評 価 項 目	昨年度	今年度
A 就職率の向上が図られているか。	3. 9	3. 9
B 資格取得率の向上が図られているか。	3. 8	3. 9
C 退学率の低減が図られているか。	3. 6	3. 5
D 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	3. 1	3. 0
E 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用しているか。	3. 1	3. 1

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 国家試験の全員合格、資格取得 1 0 0 % を目指し、思いを同じくして学校全体で指導に当たっている。特に、今年度は感染防御が必須となっており、学力や気力とともに健康保持を徹底した。(A・B)
- ② 特別な配慮や指導が必要な学生に対し、教務、学校全体で細やかにサポートを行う体制はあるものの、年度当初よりコロナ禍における臨時休業等、かつて経験のない学校生活となり、心身の管理や健康維持が大きな課題となり、対面や W e b など様々な環境において、多くの学生に対して個に応じた指導を繰り返した。
また、学校カウンセラーによる面接も効果的であった。(C)

- ③ 社会労務士による「就職セミナー」(第3学年)を実施し、社会保険や労働条件等の基礎的な知識を学習した。(A)
- ④ 就職に関する面談回数を増やすとともに希望者には面接練習を実施することにより、各人の意識向上を図った。(A)
- ⑤ 再就職支援事業にかかる研修会をWeb開催したが、大変大きな反響があり有意義であった。(D・E)

(3) 次年度への課題

- ① 歯科衛生士としての意識向上と、専門職の自覚をうながす教育を強化する。
(B・C)
- ② 国家試験対策のスタート時期をできる限り早期にし、全員合格を達成する学校全体のサポート体制をさらに強化できるよう検討する。また、第1・2学年次における指導法を工夫することで段階的な指導を行っていく。(B)
- ③ 個別面談や保護者面談を繰り返し、さらには学校カウンセリングを適宜実施することも含め、学校と家庭の連携を密にして丁寧な指導を行い、不適応による退学者等をなくす。(C)
- ④ 卒業後1～2年以内の離職率を減らすために、問題点を整理しつつ、卒業までにセミナー開催等の工夫が必要と思われる。(D)
- ⑤ 卒業生の社会的活躍が充分把握できておらず、一定期間(例として、1～2年後)経過した後に調査を実施するなどの方策が必要である。また、講演や講座を企画することで、同窓生の活躍を知る機会を設定する。(D・E)
- ⑥ 在宅の資格所有者に対する復職支援について、県主催の歯科衛生士確保に係るワーキンググループの活動を通して、県歯科医師会、県歯科衛生士会や本校同窓会と連携し、歯科衛生士有資格者に情報発信を広く行う。(D)

〔評価項目 5〕 学生支援

(1) 評価得点

評 価 項 目	昨年度	今年度
A 進路や就職に関する支援体制は整備されているか。	3. 8	3. 8
B 学生相談に関する体制は整備されているか。	3. 9	3. 8
C 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	3. 8	3. 9
D 学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	3. 4	3. 4
E 課外活動に対する支援体制は整備されているか。	3. 2	3. 1
F 学生の生活環境への支援は行われているか。	3. 0	3. 3
G 保護者と適切に連携しているか。	3. 4	3. 0
H 卒業生への支援体制はあるか。	3. 6	3. 5
I 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3. 6	3. 6
J 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	3. 6	3. 6

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 各学年段階に応じた担任教務との個別面談や保護者面談、進路選択・決定期においては教務主任面談を繰り返し、可能な限り支援体制を充実させた。特に今年度はコロナ禍の中で心身の安定を図ることが主眼となった。(A・G)

- ② 学校カウンセラーによる教育相談が順調に行われ、上記①同様、概ね目的を達成できたと思われる。(B)
- ③ 平成30年度より開始された本校独自の修学支援事業の「特待生制度」と「奨学生制度」の二つについて円滑に運用することができた。また、その効果として、学ぶ意欲のある学生が増えてきている。(C)
- ④ 山形県当局より「高等教育の修学支援新制度」の機関確認をいただき、今年度からその対象校として制度を運用することができた。予想以上の対象者数であったこと、またコロナ禍という厳しい事態が発生したこともあり、極めて意義のあるものとなった。(C・I)
- ⑤ 厚生労働省「専門実践教育訓練給付」講座指定校として、順調に当該事務を遂行した。また、対象者も大幅にふえている。(C・I)
- ⑥ コロナ禍において、国や県からの経済支援を受けるとともに、本校独自の支援事業(1人3万円給付)を実施することができた。(C)
- ⑦ 例年夏季休暇期間中に1年生の母校訪問を行っているが、感染が少し緩やかになったこともあり、今年度も実施できたことは大変良かった。高校の担当教諭からの返信においても丁寧で前向きな言葉がたくさん届き、有意義な取り組みとなった。
(A・B・J)

(3) 次年度への課題

- ① 本校独自の修学支援事業のうち、「特待生制度」の増枠を図り、学びへの意欲向上と経済支援の充実を図る。(C)
- ② ここ数年、社会人の入学者が複数名となってきたが、今後さらに増員を目指し、厚生労働省「専門実践教育訓練給付」制度の広報を幅広く行う。(C・I)
- ③ 「高等教育の修学支援新制度」の運用を円滑に行うとともに、国や県の修学支援事業等に対し適切に対処する。(C・I)
- ④ 次年度についても、「就職セミナー」を開催し、求人票の見方や社会保険等に関する指導を行う。(A)
- ⑤ 経済支援体制の諸制度(校内外)一覧を作成し、校内掲示を行うことなどにより浸透を図る必要がある。(C・I)
- ⑥ 保護者との適切な応接を学ぶ研修会が必要である。(G)
- ⑦ 保健室の整備と使用方法等について検討をしていく。(D)

[評価項目 6] 教育環境

(1) 評価得点

評 価 項 目	昨年度	今年度
A 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	3. 3	3. 0
B 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	3. 2	2. 8
C 防災に対する体制は整備されているか。	3. 5	3. 4

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 感染対策により、歯科医師会館講堂や実験室等の大教室の使用や、2教室の分散授業等経験のない対応が必要となり、授業実施や運営に困難を生じさせた。(A)
- ② 学校図書室の学習環境が整備が進み、「テーマ研究」や試験対策等で利用しやすくなった。(A)
- ③ コロナ禍により臨床実習施設の訪問や各指導者との面談、指導者会議等を実施することができず、意思疎通が充分行われたとはいいがたい状況となった。(B)
- ④ 学生対象の緊急連絡システムの運用を開始したことにより、コロナ禍対策や水害等に係る危機管理について大きく向上した。(A・C)

(3) 次年度への課題

- ① コロナ禍中における在籍学生数増加に伴い、教室面積の拡大や付随する設備の整備は喫緊の課題であり、迅速に対応する必要がある。(A)
- ② 旧校舎のトイレ改修、教室内机椅子や備品等の整備について、中長期的な計画を立てて学生が学びやすく、過ごしやすい環境作りをめざす。(A)
- ③ I C T関連機器の機能向上と必要数の確認を行う。(A)
- ④ 校内設備の定期点検、計画的メンテナンスを実施し、安全で清潔な環境の維持をめざす。(A・C)

〔評価項目 7〕 学生の受け入れ募集

(1) 評価得点

評 価 項 目	昨年度	今年度
A 学生募集活動は適正に行われているか。	3. 8	3. 9
B 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	3. 9	3. 8
C 学納金は妥当なものとなっているか。	3. 8	3. 9

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 感染防御を基本におき、学生募集要項説明会やオープンキャンパスをW e b 開催としたが、大変良い反響をいただき、予想以上の入学志願者数を得ることができた。
(A)
- ② 進路に係る高等学校主催の進路研修会や個別の学校訪問等、例年同様可能な限り対面での広報を行ったが、歯科衛生士の仕事への理解浸透や本校の特色の広報等、効果が上がったものと思われる。(A・B)
- ③ 学校H P のスマホ対応とし、専用ブログに加えてインスタグラムの更新が頻繁に行われ、各種学校情報や特色等の広報を様々な形で行うことができた。(A・B)
- ④ 一昨年度開始した本校独自の修学支援事業や今年度開始の「高等教育の修学支援新制度」、また平成30年度より運用している社会人対象「専門実践教育訓練給付金」等、現在備えている経済支援制度の広報について、高校訪問や進学ガイダンス、オープンキャンパス、学校H P 等各方面で行った。(A・B)
- ⑤ 戴帽式やテーマ研究発表会について報道機関の取材があり、広報の実が上がった。
(A・B)

(3) 次年度への課題

- ① 高校訪問、各会場での進学ガイダンス、中学校への出前授業、メディア等により、歯科衛生士の仕事について、さらに理解の浸透を図っていく。(A・B)
- ② インスタグラム等の更新に関して、学生からの発信を検討できないか。(B)

- ③ 山形県歯科医師会の他部門の取り組みとの連携をさらに強化する。(A・B)
- ④ 入学者への聞き取りを行い、本校選択のきっかけや参考媒体、紹介者等について広範に調査する。(A・B)
- ⑤ 男子学生や社会人の受け入れを意識した広報活動を推進する。(A・B)
- ⑥ 中長期的展望に立ち、現在の本校入学者選抜試験について全体的に点検を行い、改善に向け検討していく。(A・B)

[評価項目 8] 財務

(1) 評価得点

評 価 項 目	昨年度	今年度
A 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	3. 3	3. 4
B 予算・収支計画は有効且つ妥当なものとなっているか。	3. 4	3. 6
C 財務について会計監査が適正に行われているか。	3. 8	3. 8
D 財務情報の公開の体制整備はできているか。	3. 8	3. 8

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 予算の執行や財務管理は適切に行われた。(B・C・D)
- ② 本校が備えている各種経済支援制度の運用はもとより、コロナ禍における国や県、そして本校の支援策の手続きや事務処理等大変円滑に行うことができた。(B)
- ③ 学校HP上に財務状況の概略を公開し、客観性を担保した。(D)

(3) 次年度への課題

- ① 厚生労働省「専門実践教育訓練給付」制度を有効活用し、また、「高等教育の修学支援新制度」の対象機関として、社会人や低所得家庭からの入学者をさらに増員していく。(A)
- ② 学校の魅力を広報するとともに本校が備えている各種制度の周知を徹底し、入学希望者の増大に役立てる。(A)
- ③ 定員充足が最も基本的な課題であるが、一方で、適切に予算を削減することとともに、日常的に経費節減を心がけ、安定的で継続性のある経営をめざすことが必要である。(A・B)
- ④ 本校独自の修学支援制度は4年目を迎えるが、長期的な視点に立ち、学生募集の実を上げ、学生生活の安定と学びの充実を目指し、さらなる改善に向け検討をしていく必要がある。(A・B)
- ⑤ 単年度だけでなく、中長期的な取り組みを策定し、順次計画を推進していくことが必要である。(A)

〔評価項目9〕法令等の遵守

(1) 評価得点

評 価 項 目	昨年度	今年度
A 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	3. 8	3. 9
B 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	3. 8	3. 8
C 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	3. 8	3. 8
D 自己評価結果を公開しているか。	3. 8	3. 8

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、学校図書室運営検討委員会をそれぞれ年2回開催し、それぞれ委員委嘱した企業等委員や外部有識者の意見を学校運営に反映させることを基本としていたが、今年度は、コロナ禍の中で、学校関係者評価委員会と図書室運営検討委員会が1回限りとなった。その補完として、学校関係者評価委員各位には感染症対策の中間総括書により報告を行った。(A・C)
- ② 学校評価事業開始5年目を迎えているが、その総括を通して学校の運営改善に大きく役立てることができた。さらに、自己評価や学校関係者評価の実施は、関係者の当事者意識や一体感を高めることに繋がった。また、それを学校HP上で公開することにより、少しずつ社会的な信頼獲得が図られている。(A・C・D)
- ③ 学校HP上に「情報公開」欄を設け、文部科学省が示すガイドラインに従い学校情報を公開した。(A・C)
- ④ 「個人情報保護方針」を学校HP上に公開している。(B)

(3) 次年度への課題

- ① 公開した情報や学校生活に関連した事柄について、保護者に対してできる限りの周知を図るとともに、一般の方々に幅広く浸透させていく方策を検討する。(D)
- ② SNS、スマホ使用時の情報管理についてさらに指導を徹底した方が良い。(B)

[評価項目 10] 社会貢献・地域貢献

(1) 評価得点

評 価 項 目	昨年度	今年度
A 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	3. 4	3. 2
B 学生のボランティア活動を奨励や支援をしているか。	3. 6	3. 3
C 地域に対する公開講座や教育訓練（公共職業訓練等含）の受託等を積極的に実施しているか。	3. 4	3. 4

(2) 今年度の主な取組並びに成果

- ① 学校周辺の地域清掃ボランティアを年2回（7月・12月）実施した。（B）
- ② 新型コロナウイルス感染症拡大の情勢において、「歯科専祭」をはじめとした主な学校行事の中止をはじめ「花笠祭り」その他の地域イベントが中止となり、地域社会との接点を見出すことができなかった。（A・B）

(3) 次年度への課題

- ① W e b（YouTube 等）を利用した地域への発信等、コロナ禍における新しい形の地域交流を模索する必要がある。（A・B）
- ② 第3学年「テーマ研究」発表会のW e b公開を推し進め、高校生や保護者、各学校関係者や一般から参加者を募る。（A）
- ③ 「歯科専祭」の実施について、時期や内容、発信方法等を再検討する。（A）
- ④ 様々な団体や企業との連携により、活動の幅を拓けていく（A・C）